

原子力委員会  
第 29 回市民参加懇談会議事録

1. 日 時：平成 19 年 10 月 19 日（金） 15：00～17：00

2. 場 所：虎ノ門三井ビル地下 1 階 原子力安全委員会第 3 会議室

3. 出席者

（市民参加懇談会）中村座長、浅田委員、新井委員、出光委員、岡本委員、小川委員、  
小沢委員、東嶋委員、吉岡委員

（原子力委員会） 近藤原子力委員長、田中原子力委員長代理、松田委員、伊藤委員

（内閣府）黒木参事官、西田補佐

4. 議 題

（1）市民参加懇談会 i n 横浜の開催について

（2）今後の地域市民参加懇談会の開催について

（3）その他

5. 配付資料

資料第 1 号 市民参加懇談会 i n 横浜の開催について（案）

資料第 2 号 次々回地域市民参加懇談会の開催について（案）

資料第 3 号 第 28 回市民参加懇談会議事録

○中村座長 それでは、定刻を過ぎましたので、２９回になります市民参加懇談会を始めさせていただきますと思います。

今日のご出席は全員ということで、前回までいろいろ議論してまいりまして、具体的な開催計画にもう入っておりますので、前回欠席の方にとっては「おお、そうか」という感じかもしれませんが、データはお手元に届いていると思います。

地域での市民参加懇談会、市民参加懇談会 in 横浜が今月２９日開催ということで、既に公募を開始しておりまして、それなりの応募が、今、あるようです。この開催の具体案についてご検討いただくと、その後のこれからの地域での市民参加懇談会の開催について、今、次々回は富山という案がまとまっておりますけれども、それを含めてご審議いただきたいと思います。

それでは、まず事務局から資料の確認をお願いするとともに、ご承知のように、昨日、東京電力柏崎刈羽原子力発電所での点検作業の中で、１本の制御棒が駆動部分と分離して引き抜けないという事態が発生したということで、それに対しては保安院もコメントを出しておりますので、そのあたりのニュースリリースを、事務局からあわせてご紹介いただきます。

それでは、事務局、お願いします。

○事務局 それでは、配付資料でございますが、座席表の紙１枚と議事次第の紙、それから市民参加懇談会 in 横浜の開催についてということで、関連の資料の資料第１号でございます。それから、市民参加懇談会 in 横浜という黄色いチラシを１枚入れさせていただいております。また、資料第２号といたしまして、次々回地域市民参加懇談会の開催について（案）というものでございます。また、資料第３号といたしまして、前回、第２８回市民参加懇談会の議事録でございます。

また、今回、席上配付ということで、昨日、原子力安全・保安院からプレスリリースとして出されました「中越沖地震における東京電力（株）柏崎刈羽原子力発電所の影響について」という紙を席上配付させていただいております。

この内容でございますけれども、これまで幾度かこういう影響の形で公表されておりますけれども、この中で今回、柏崎刈羽７号機につきまして、１０月１１日から実施している燃料取り出し作業におきまして、１本の制御棒が駆動部分と分離して、引き抜けないことが確認されたというプレスリリースをされてございます。

現在、柏崎刈羽原子力発電所につきましては、今、１号機と７号機につきまして、炉をあけて炉心の中を点検しているという状況でございます。今回、７号機において、制御棒自体は、今、全挿入された状態であったものを、１本１本引き出したところ、すべての制御棒のうち１本だけ引き抜けない状態になっているものが確認されたということでございます。

現状の状態でございますけれども、これは保安院の方に実際の状況を確認いたしましたところ、柏崎刈羽 7 号機につきましては、制御棒を駆動する機構といたしまして、電気モーターを使って出し入れする系統と、水圧を使ってスクラム時に制御棒を押し込む系統が 2 つあるということでございまして、実際、スクラムで水圧を使って緊急に押し込む場合には、電気モーター系のものとは切り離して中に挿入されるような形になっておりまして、もともと駆動部分と分離しやすいような形になっているということでございます。

ただ、通常、分離したとしても、電気系の駆動部分と合わせると、くっついて引き出せるような形になっておるんですが、今回、電気系で引き出そうとして何回か試みたそうなんですが、どうしても 1 本だけが引き出せない状態に、今、なっていると。ただ、制御棒としては、全挿入された状態ではあるということでございますので、地震直後、制御棒の挿入には成功しているということで、安全上は全く問題ないという形で回答をいただいています。

今回、この制御棒が 1 本だけ引き抜けない原因につきましては、今後、引き続き調査していくというふうに言われてございます。

一応、その他、このことでございますけれども、別紙 1 以降にこれまでの点検経過の内容などが記載されてございます。これまでのトータルといたしましては、2, 898 件の不適合情報というものが掲載されてございます。

また、その他でございますけれども、今後、柏崎刈羽 1 号機、7 号機以外にも、順次、5 号機、6 号機等の炉心をあけて、内部を点検していくというような作業スケジュールになってございます。

説明は以上でございます。

○中村座長 では、資料は、皆さん、お手元でございますね。

今の件ですけれども、報告のあったとおりなんですが、22 日月曜日に委員有志で柏崎刈羽を訪問しますので、この目的は、被害状況と復旧状況を見て担当者にお話を聞くということですが、多分、この件も話題にはなるだろうと思います。22 日、また皆さんと一緒に行って、状況を収集してきたいなというふうに思っております。

それでは早速、本日の議題ですけれども、まずはお手元の資料第 1 号にございます市民参加懇談会 in 横浜の開催ということになります。

一応、この案という形で、概略を事務局と相談してつくりましたので、簡単にご説明をいただいて、皆さんにご意見をいただこうと思っております。横浜については、かなりこれで固まっていますので、微調整ぐらいになるとは思いますが、では資料をごらんいただきながらお聞きください。

○事務局 それでは、資料第 1 号の説明をさせていただきます。

市民参加懇談会 in 横浜でございますが、10 月 29 日月曜日の午後 1 時半から 16 時 30 分でございます。専門委員の皆様におかれましては、12 時ぐらいに会場にご参集い

ただきまして、昼食等を取りながら、直前の確認、打ち合わせ等をさせていただければということを考えてございます。

会場といたしましては、予定としては200名程度でございますけれども、会場のキャパシティとしましてはもう少しあるということでございますので、できるだけ参加希望があれば入れてまいりたいというふうに考えてございます。これは、現時点でもう80名程度の参加の申請が来ているところでございます。

テーマといたしましては、「原子力 ～知りたい情報は届いていますか～ 「新潟県中越沖地震に学ぶ」ということでございます。

全体の流れでございますけれども、冒頭、事務局から開催趣旨説明をさせていただければと思います。その際に、各委員のご紹介などもさせていただければと考えてございます。

次に、第1部といたしまして、司会・進行を中村座長に交代させていただきまして、ご意見発表を45分間予定してございます。最初は、東京電力の工藤様から、当日、柏崎刈羽の事実関係につきまして12分ほどご説明をいただく予定でございます。その後、柏崎市のパネリストの方、須田先生、新野先生、内藤先生から、それぞれ7分程度のご発言をいただく予定でございます。その次に、横浜市のパネリストということでございまして、高橋先生から5分程度のご意見をいただいた後、最後、専門家ということで、入倉先生、松原先生から3分程度でご感想をいただければということを考えてございます。

その後、主にパネリスト間を中心にいたしまして、45分間ぐらい意見交換をしていただいた後、休憩を挟んで第2部に移らせていただく予定でございます。

第2部は、次のページでございますけれども、約70分程度を考えてございまして、主に会場の方々からのご意見、ご発言を伺う予定でございます。

会場の見取り図を、その次のページに掲載させていただいております。前回のご指摘がございましたように、メインのテーブルを囲むような形の観客席を予定してございます。

それから、それ以降の次のページでございますけれども、こちらの資料につきましては、当日、この会場に参加される一般市民の方々に配布を予定している資料でございます。資料の内容につきましては、従前よりお配りしているような資料を主に使って配布させていただきます。

また、最後に、ご参加された方々に対するアンケート調査の協力もお願いしております。これも、通常と同じでございまして、最後に回収した形で、集計した上で、今後の参考にしてみたいというふうに考えてございます。

説明は以上でございます。

○中村座長 ということで、皆さんとお話ししたように、パネリストの選定については幾つかの段階があって、曲折もありまして、こういう形になったんですけれども、皆さんとの了解事項として、とにかく被災された地元の皆さんの声を直接聞こうと。それを、消費地である横浜を中心にした皆さんに聞いていただきながら意見交換をしていこうという趣

旨で、最終的にパネリストの選定もいたしました。

それから、東京電力も被災当事者でもありまして、東京電力としては、もう少し時間は欲しい、人も出したいというご希望もあったんですけれども、全体のバランスを考えるとこれぐらいのことかなと。特に、柏崎の３人については、なるべく時間を差し上げてお話を伺いたいということで、このような構成を考えました。

最後の専門家のところですけども、一応、入倉先生に地震、耐震関係のこと、それから松原先生には放射線影響について、ご発言の感想とともに、今回の地震災害一般に対するご感想、あるいは消費地は報道という形で、当初、特に一方的な情報が流れただけだったものですから、そのようなことをごらんになられて専門家としてどのようにお感じになったかというあたりをお聞きして、その後の意見交換と第２部の市民の皆さんからのご発言のきっかけづくりをしていただければということで、このように構成を考えてみました。

何かご意見なりアドバイスなり、ございますか。

○吉岡委員 私が若干いちゃもんをつけて、ただでさえ急いでパネリストを決めなければいけない事務方に、気をもませて申しわけありません。もちろん適当なところで收拾するペースでやったわけです。この市民参加懇談会というのは、木元さんはもうお辞めになったけれども、彼女の意図としては、この先祖に当たるものが原子力政策円卓会議であって、円卓会議というのはいろいろな立場の意見の人が出てきて、その場で顔を合わせてくれるようにという性格の会であって、木元さんもその要素は維持しようと、２００１年以来やってきたと思うんですよね。そのためには、普通の広報イベントではなくて、批判的な人も「おもしろそうだな」と顔を出すような感じの会にした方が、ただの広報イベントとは別のチャンネルを確保するという意味でプラスではないかというふうなことだったと思うのです。その観点からはパネリスト候補の中に、あまり批判的な人がいないのではないかとということでいちゃもんをつけたわけです。

おかげさまで、若干、特に専門家について改善された面というのがあると思うので、それは結構なんですけれども、それにしても、例えば地元の人で武本和幸さんとか、そういう方を呼ぶ手はなかっただろうかと思います。彼とは、８月上旬に私は路上で鉢合わせしました。家の一部がつぶれて、電気、ガス、水道の復旧状況がどうだとか、そういうような話を詳しくしてくれました。しかし、今回のパネリスト候補は、両方とも似た系統だなというような気がします。そういう文句はありますけれども、急いで決めたことだし、これでよろしいかなというふうに思います。

以上です。

○中村座長 基本的なところは、吉岡委員のお考えもあると思うんですけれども、特にこの横浜とその後の富山というのは、我々としても議論を深める場というよりは、やはり実際にどうであったのかということを知りたいと思うので、もちろんその選定の中で、いろいろなお立場の方がいらっしゃるとは思いますけれども、ご承知のように、新野さんにつ

いては、柏崎刈羽地域で立地としては画期的な集まりができた中で、この会にはもちろん反対の立場の方も、行政の方も入ってという形でやっていらっしゃる活動ですから、そういうお立場で、多分、発言していただけたと思うんです。そう一方的なお話だけを聞くつもりもこちらはないので、意見交換の中で吉岡委員は吉岡委員で、東電なり地元の方なりと、また意見交換を深めていただければと思っております。

○吉岡委員 はい。よろしくお願いいたします。

○中村座長 基本的には、我々はそういうスタンスで臨みたいと思っていますし、何より消費地である、横浜といっても東京からもいらっしゃるようですし、ほかからも、例えば浜岡に近い方からも来られるかもしれないので、そういう方たちに、実際、被災された方たちがどうであったのか、どういうことを感じられたのかという生の声をやはり聞いていただいて、それを足がかりに市民懇談をやりたいという趣旨で考えていますので、そのあたりでは委員の皆さんも、活発なご発言でいろいろ意見交換をしていただければというふうに思っております。

ほかに何かございますか。

○近藤原子力委員長 地域の会の会長の新野さんを入れちゃうと、武本さんは地域の会の委員でちょっと下がるんだけど、我々も全然、キャリアでは特にon the listだというふうに思っています。

○中村座長 その辺をあまり恣意的にするつもりはもちろなかったもので、結果的にこういう形で妥当な線じゃないかという最終的な選定でした。もちろん、ご本人の許諾の問題もあるものですから、こういうことで選定させていただきました。

そんなことで、多分、もうここまで煮詰まっているというか、実施要綱が決まって実際に募集も入っていますので、あとは当日、これもまた全員参加のはずなので、委員の皆さん、活発な意見交換をしていただければというふうに思っております。

では、横浜についてはそれでよろしいですか。これは、この次ともちょっとブリッジになるので、もしまた何かあれば戻っても構いませんけれども。

○吉岡委員 1点だけ、いいでしょうか。

先ほど、隣の東嶋さんと話していたんだけど、3月の能登半島の地震でもかなりまだ被災地が相当ひどい状態に一部ある。柏崎刈羽はますますそうであると思われるので、その話もちょっと説明で入れた方がよいのではないのでしょうか。原発だけというふうになると、何か心が通っていないような気がするんですよね。

○近藤原子力委員長 いや、本当に現地に行ってみれば、そういう感じになるよ。

○中村座長 その辺は本当に、前の中越だってまだ完全復旧しているわけじゃないから、地震災害ということで考えれば、それは発電所の問題だけじゃなくて、たくさんあるんですけれども、そういうことも含めてもちろんお聞きしたいということで、観光協会ということも考えたんですけれども、でも、どうしてもやはり発電所の安全性なり情報提供なり

というところに、最終的にはやはりフォーカスはすると思うんですけども。

○浅田委員 この順番が、ご意見をいただく順番になるのでしょうか。

○中村座長 流れとしては、一応、そう考えています。

○浅田委員 東電が1番だと、余計に今おっしゃった傾向が出てきますよね。現地の方のお話を先に伺うと、多少、原子力発電所に限らないで、もうちょっと被災地的な感覚みたいなものが入ってくるのでしょうかという気がします。

○中村座長 両方あると思うんですよ。それで、当然、原子力委員会の市民懇ですから、最終的にはやはり発電所のところにテーマとしてはフォーカスするので、どちらかというと、東電さんをお願いしたいところというのは、事実関係の報告なんですよ。先ほど、最初にちょっと意味ありげなことを言いましたけれども、当然、東京電力としては、意見発表をもっとしたいんだろうと思うんですけども、それは比較的抑え目にして、地震全体の状況と発電所と当事者である東京電力がどうしたかということをまずお話ししていただくのが、具体的な家屋であるとか道路であるとか観光産業などの被害状況を最初に聞いていくよりは、入り口としてはよいのかなというふうに思ったんですよ。ということで、一応、最初に東京電力から事実関係の報告を含めて、今どういうことをやっているとかどういう状況にあるというのをまず聞いてからにしようかなというので、この構成になっているんですけども、後にすると、余計、東電の発言場所というのが難しくなるのかなというのもあって、そういう流れにしようかなと思ったんですけども、どうでしょうね。

○新井委員 そもそも、しかし、地震の被害というのは附帯的な話でしょう、今回の場合は。大体、我々の議論は原子力委員会の専門部会だから、結果としてその話が出ることは一向に構いませんけれども、メインが原子力に関わっての話に置かれるのは当然なのではないですか。

○中村座長 フォーカスは、そこだと思うのですよね。

○新井委員 そう思いますけれども、結果としてそうなるというよりも、そのためにやるのではないのですか。違いますかね。

○中村座長 いや、そうだと思いますよ、それは。

○小沢委員 地震のことを聞かれるわけ？

○中村座長 「聞かれる」というのは？

○小沢委員 前、浜岡でやろうと行ったときに聞かれたような内容ではないの？

○新井委員 そういう意味ではないでしょう。

○中村座長 うん。そういう意味で言っているのではなくて、被災された地元の声を聞くという意味での地震ということ。

○新井委員 一般的な地震災害の話に移行しようとしているから、それも少し違うのではないかと僕は言っていたわけです。

○小沢委員 だけど、地元の人としては、これを残すとすれば「地震は大丈夫か」と聞き

たいという話に、実際に地震があったところだとなっていくんじゃない？浜岡のときは、いわば仮想というか、「もしも」という感じだったから。

○中村座長　そうです。だから、そこが、逆に言うと我々も興味があるところは、浜岡・御前崎はずっと「来るぞ、来るぞ」と言われて、今、想定だけで話をしているわけですよ。柏崎刈羽は、来ると思っていないところにいきなり来てしまったと。このギャップがまずあって、実際にどうだったのかというのが聞けるというのが、こちらとしても一番関心のあるところなわけですよ。

要は、「地震がどうだったの」という話は、やはり新井さんが言われるように二次的なことで、ただ、被災としては、それは地震被害が一番大きいはずで、我々も月曜日、町中まで見られるかどうかかわからないけれども、こっちはもう全然復旧していないところがたくさんあるわけでしょう。もう復旧は無理な家屋などもたくさんあるわけだから、それはそれとして聞くけれども、フォーカスはやはり、「それで原子力発電所はどうだったの」というのが東電の話で、「それを皆さんはどう受けとめていたの、どう感じていたの、何が不満だったの、何をもっと知りたかったの」ということが聞ければというのが目的なんですけどね。

○小沢委員　地震後のとまった柏崎刈羽の発電所について、例えばこういう心配があったのに答えられなかったとか、そういうことに限定するわけですか。

○中村座長　限定というか、当然、今回のここに招かれての発言は、やはりそれが中心になってくるだろうと思うんです。

○小沢委員　でも、多分、国会でも何か廃炉にしろとか何とかという話が出ていたじゃない？だから、当然、これは女川にいつ来るかわからないのにと。また2度来ちゃったじゃない、新潟は。3度目もあるかもしれない。2度あることは3度あると。「いいのか」みたいな話が、必ず出ると思う。

○中村座長　ちょっと微妙なことをお話しすると、1つはその前の26日に、浜岡の裁判の判決が出るんですよ。これでニュアンスとしては、古いものについては、あるいはそういうようなことも出ないとも限らない。そういうことはある。

○小沢委員　点検して一定の方針を出せぐらいしか、それは判決だってできないでしょう。幾らあそこで影響があったとしてもね。

○中村座長　そうですね。だから、裁判官も、何か2号炉と4号炉は見たらしいので、浜岡はどういう判断をするか、興味深いところではあるんですけど。

○小沢委員　しかし、そこで引っかかっちゃうとなかなか、「そのぐらいのものが来たとしたらどうするんだ」みたいな話で本当にみんなが真剣だとしたら、「ちょっとその話は置いておいて」というわけにも、これはいかないでしょう。

○中村座長　うん、それはそう。

○新井委員　そういったことに関して、一般的な地震被害の話がこの中に入ってくると、



違うんじゃないですかというだけです。小沢さんの言っているのは、原子力に関わっての話は何でも構わないんですけれども。

○小沢委員 いや、しかし、それが難しい。一般論なら幾らでも出てくるけど。

○中村座長 やはり我々も、原子力委員会市民懇の専門委員として皆さんと意見交換に行くわけで、そこはもう新井さんが言われるように、一般的な地震災害の話に終始するようなことには、逆にならない。それから、小沢さんが心配されるように、そこばかりが話になって、結局それは、その場で結論が出る話ではないです。ね。「こういうところが不安だ」という話になるんだけど、それはそれでお聞きするものはお聞きし、議論できるところは議論する。吉岡さんも多分直接、東電にただすところはあるだろうと思いますけれども、その辺は、発電所に関する点については、皆さん活発に。

○小沢委員 東電の中にも、地震などの専門家はいるんですかね。

○中村座長 いや、いないでしょう、それは。班目先生もおっしゃっているけれども、日本が幾ら地震国といっても、もともとやはりああいふ剛構造のものに対する専門家というのは、ほとんど育っていないんじゃないですかね。部分的には、もちろんあるんでしょうけれども、ただ、高層ビルや何かのような耐震・免震というのは、多分、全然違う話なので。

○小沢委員 だから、本当に電力会社の考え方を聞くのはいいにしても、やはり地震という話になって、東電が地震の専門家とどういうふうな話を積み重ねたのかみたいなことや何かも本当は知っていないと、「地震のことは、ちょっと我々、専門家ではないので」みたいになっちゃうと、豆腐が折れたぐらいで「ああ、それはもう建て直します」というので終わっちゃうじゃない。そこが、これはすごく微妙だなと。

○中村座長 そこは、でも、東電に聞くのは一向に構わないと思うんですよ。逆に、それはほかの一般の方も知りたいところだから。

○小沢委員 前の浜岡は、そこでもめたんですよ。地震を聞かれない地震を知らないのと。

○中村座長 特に、原子炉建屋の問題と、今回被害が大きかったほかの一般棟のランクの違う建物、トータルでやはり被害は出ているわけだから、その辺のことは逆にはっきり聞いた方がいいと思うんですよ。市民の方からも、それは質問が出るかもしれないけれども、我々もスタンスとしては、そういうことだと思うんですけれどもね。

○近藤原子力委員長 しかし、入倉先生は、浜岡の裁判で原告、被告、両方からの証人として証言された方ですから。

○小沢委員 この方は、地震の専門家？

○近藤原子力委員長 ええ。地震の専門家です。

○中村座長 だから、その点で、入倉先生がご出席いただけるのはありがたいと。

○小沢委員 うん。本当によかったね。3分間で地震の話をするの？

○近藤原子力委員長 何か、かわいそうですね。

○中村座長 いやいや、これはだから、入り口ですよ。

○小沢委員 入り口だけね。

○中村座長 ええ。入り口なので、逆にまたここも、例えばやはり専門家にはちゃんと聞きたいと、これをまた5分だ10分だとすると、「もともとの趣旨は何なんだよ」という話になると思ったので、入り口ではこれでいいですよ。その後、具体論になったら、当然、専門家にご発言いただかなきゃいけない場面があるわけだから、そこではじっくりご発言いただくけれども、ここはちょっと感想程度、ご紹介程度で、もう入り口は終わろうという考えです。ただ、本当に地震の問題というのは、前のこの委員会のときにも近藤委員長がおっしゃったように、これはいろいろ、今、研究作業が進んでいるところなので、それはそれでまたいずれやらなきゃいけないんでしょう。それが、市民懇がやることかどうかはまた別の話ですけども、国としては、当然、それはやらなきゃいけないことになってくると思います。

○浅田委員 先ほどの最初に私が申し上げたのがきっかけで、こういうことになったんですけども、趣旨は、ここの中では一致していて、ただ、ちょっと違和感があるといけないうという危惧をしたんですが、でも、最初の開催趣旨説明のところできっちり説明されるわけですので、ここで皆さんで一致できたということで、私はもうそれで結構です。

○中村座長 これから大事なのは、その次も結局、同じテーマで富山でやろうということで、ちょうど中越と北陸の地震のあった真ん中の富山というのがあるものですから、大事なところだと思うんですね。

では、横浜は横浜で、また立ち返ってもいいんですけども、次の富山も同じテーマで同じようにやろうと考えているので、ちょっと富山の方に移らせていただきますか。

それで、たまたまなんですけれども、つい先日、富山テレビの取材を受けまして、全く別の問題なんですけれども、そのときに県政を担当している放送記者などと会ったときに、「実は市民懇でこういうことを考えているんだ」という話をしたら、非常にwelcomeで、ぜひ彼らも取材したいということを言っていました。というのは、やはり中越沖地震があって、県に対しても県民からの要望として、富山県は防災計画の中に、今まで原子力防災は入っていないんですね。それはやはり入れるべきだということで、何か県の方も前向きに、今、検討しているところで。

○小沢委員 何もし？

○中村座長 何もしと。

○小沢委員 県条例も。

○中村座長 多分、ないと思うんですよね。防災計画の中に、それを盛り込むということになっているそうです。私も、詳細には知らないんですけども。それで、一応、地元では巷間言われているのが、「とにかく富山は大丈夫なんだ」というのが、もう皆さんの伝

説的なあれなんだそうです。

○小沢委員 でも、兵庫県の神戸の例もあるから、この委員会がこんな説明会を「学ぶ」なんて開かれると、「次は来るのか、自分たちも」なんて。

○中村座長 その辺が、何か科学的根拠もないんだけど、「我々は大丈夫だ」と思っているというのは、全国共通しているじゃないですか。福岡だってそうだったわけで。

○吉岡委員 富山でいうと、能登半島地震では高岡で随分揺れたんです。高岡は父の生まれたところですけども、高岡は震度5強ぐらい出て、親戚から聞いた話でも相当、物が散乱したり落ちたりとか、そういうことがありました。それに対して富山市は、たしか震度4だったんですよね。だから、揺れ方がかなり違っていて、しかも、風向きで考えると能登から来る風の方が、柏崎から来る風よりも確率が高い。だから、高岡の人の方がリアリティーというか、原子力災害があり得るかなという感覚を持ったんじゃないかと思います。私は、母方が富山なんですけれども、20キロしか離れていないですけども、大分、感覚は違うんじゃないだろうか。だから、高岡からもちゃんと呼ぶのがよい。

○中村座長 そうですね。

そんなことで、我々、それなりに検討して富山という都市を、初めてこういう関係の催しを開催する土地として選択したんですけども、今、吉岡先生のお話があったように、僕もたまたま富山テレビと話をしたときに、そんなことで関心はやはり高まっている状況なので、市民、県民の方の参加も期待できるかなという印象を持っていますので、当初の予定どおり、富山ということで進めたいなというふうに思います。

○事務局 座長、1つ、事実関係だけですけども、原子力安全委員会で原子力発電所の防災対策を重点的に講ずべき地域は10キロだということで、いろいろ被ばく評価とか、そういうことから、チェルノブイリは格納容器がなかったので30キロ圏を立入禁止にしたんですけども、一応、10キロ圏だということにしました。だから、10キロ圏の中は、絶対にというわけじゃないんですが、これは地方が主管になりますので、必ず原子力防災計画というものを県の防災対策の中にどこも入れています。それから外は、やるかやらないかは基本的には県なりが判断することで、重点的にやらないといけないのは10キロだということを、安全委員会で決めているということでございます。

○中村座長 それはそれとして、やはり今、全般的な防災の見直しというのが行われている中で、原子力防災というのも、富山も関心が高まっているらしいということです。

それで、具体的にご相談したいのは、まずは、吉岡委員のようにいろいろまた人選にお考えはあろうかと思えますけれども、とりあえずこの横浜においでいただく方というのは、特に柏崎の方、それから専門家は、今後すぐスケジュールを押さえてというか、登壇交渉をして、富山の方にも出演していただくことを、まず確約しちゃうことが大事だと思うんですね。

○小沢委員 この人たちしかいないわけ？

○中村座長 それを言うと、また語弊があるんですけども。

○小川委員 全員？

○中村座長 できれば全員。というのは、作業の問題があるわけですね。それは、半年後でも1年後でもいいんだよというのなら、またじっくりとした人選ということが可能なんですけれども、座長としては、市民懇がリニューアルしてスタートして、やはり年度内にできるだけことは努力してみたいということがありまして、特に同じテーマで横浜、富山と続くについては、できるだけやはり時間をあけずにやりたいと。この案の中に、「平成19年12月中下旬または平成20年1月中下旬」というふうに書いてありますけれども、ターゲットはやはり、僕はもう12月中旬ぐらいだと思うんですよ。それで、いろいろな意味で物理的に無理だったら、丸々1カ月遅らすと。それは、年末年始のことがあるので、ということになってでもいいんですけれども、やはりもう12月中ぐらいにやるんだという方針で進めた方が、私はいいと思うんですね。

○小沢委員 後半にならないようにね。

○中村座長 ええ、後半になる前に。ですから、第2週になるのかな、3週になるのかな、20日前の週あたりで、日程をちょっと何日か考えておいて、できればこの発言者の皆さんにもうご出席依頼をしちゃうという形じゃないと、なかなか進められないかなというふうに思っているんですね。調整がつかなければ、年明けすぐにとということで、もうお正月明け中旬ぐらいにやると。

さらに、私としては含みがあるんですね。さらに3月、年度末までにもう1回。これは、これからの市民懇が何をやるかということについては議論が途中のまま、とりあえずこの中越沖に対応しようということで、今、これをやっていますよね。だから、これが2回、横浜と富山で終わった後に、これから市民懇としてどういうところでどういうことをやるかということを我々としても議論したいし、その結果開催するものというのを、できればやはり、これは事務局とはまだ何も話していないんだけど、やはり年度内にやるぐらいの意欲でいかないと、ずるずるとまた行っちゃうのは嫌だなというところがあるんですね。ですから、これからについては、その辺を含めて皆さんにご意見もお伺いしたいなと思っているんですけども。

○小沢委員 やはり地震が起こってから、今までとはちょっと違ったと思うんですよ。いわゆる「ご意見はどうですか」と聞いて歩いているときと、地震が起こっちゃって、国会などでも「一体、日本で原子力は大丈夫か」みたいな、そうなってくると、これは地震後初めてですよ。

○中村座長 初めてです。

○小沢委員 だから、これが終わってから、1回ちゃんと、いろいろな出た意見をまとめながら、この市民懇を富山につなぐ前に、この反省会を含めて討論の時間をとったらどうなんでしょう。

それから、そのお三方がいらっしゃるけれども、この刈羽の話がどうなのか、私はお目にかかったことが一度もないから聞いてみないとわからないし、このお三方で次に行くのが、何とか回りの一座みたいになっても困るし、その後どうですか、今後どうしようかみたいな話は。11月の頭ぐらいに1回、この委員会を開いて、あれはどうだったのかとやって、もうそれですぐ次につなげて、年度内にもう1回、どこかでやる。地震の話があるうちにやった方が、もっといろいろな生々しい声が出るかもしれない。

○中村座長 できれば12月中旬ぐらいまでに富山を開催したい。そうすると、準備の時間的にはぎりぎりなんですよ。

○小川委員 私は並行して、富山までは座長のご意見でやっていったらいいなと思うんですね。この横浜の反省と、それを教訓にしてどういうふうにするかは、富山の次に、若干生かされればいいかなと思って、富山まではとにかくスピーディーに対応するというのは本当に賛同するところで、この方々のアポイントもとって進めていくというのでいいと思います。

○小沢委員 だけど、何で富山かといったって、富山から取材があったというので始まったわけでしょう。

○小川委員 いえ、そうじゃないんです。富山は、もう前回、決まっていたんですよ。

○中村座長 前回、前々回と欠席されているのでご存じないでしょうが、結構いろいろな範囲から、一応、富山について検討はしたんですよ。

○小川委員 日にちを優先するか、同じ人がやるかということ優先するかというのがあっていると思うんですが。つまり、12月にこの方々のアポイントがとれなければ、アポイントがとれる1月にするか、早くやった方がよいというのを優先すれば、同じような立場の方、あるいはそのほかの方で出ていただけるんだったら、別のパネリストで12月にやるかという、どちらかの選択ですが、私は早くやった方がいいかなと思います。

○吉岡委員 中間みたいな案になるんだけど、専門家としてこのお二方は不適任ではないと思っていて、入倉さんと松原さん、この人たちは、せっかくまた出てくれるならば、それはいいんじゃないかというような気がしています。柏崎市や刈羽村から防災関係者を呼ぶのは、それは向こうが指名するでしょうから、この須田さんがやはり来てくれるかもしれない。それはそれでいいんだけど、住民の方というのは、いろいろな形があり得る。選択肢はそんなに狭いわけじゃない。専門家の方は、スケジュールも考えると、余人をもってかえがたい面があるんだけど、住民については、もうちょっとオープンにしてでもよろしいのではないかという気がするんです。話を聞いてから決めましょうということですよ、それは。

○中村座長 専門家は、僕もそう思いますね。それから、東京電力と自治体は、当初の予定だと柏崎と刈羽と両方お話をしていたんですけども、どんどんパネリストの数が増えていくので柏崎に絞ったんですけども、これは柏崎市になっても刈羽村になってもいい。

○吉岡委員 今度は刈羽とかね。

○中村座長 でもいいと思うんですね。それは、向こうに調整をお願いしても構わないので。

○近藤原子力委員長 やはり横浜は、一種の三者対話という感じがあるわけですね。でも、富山は、僕は土地勘がないからなんだけれども、何だか「うちが聞きたいのは能登の話であって、この間も起こったじゃないか。何で柏崎の話を」という、それは「中越沖地震に学ぶ」というタイトルだから、こういうメンバーなんだけれども、何かあの地域の人たちの感覚として、隣の新潟県から来ても、何となく釈然としないとかという感じになることはないですか。タイトルがこうだから、当然それはいいけれど。

○吉岡委員 能登からも呼ぶということ？

○近藤原子力委員長 いや、呼ぶのかどうか。そこはそれで、地域の人々の感覚がわからないものだから。

○小沢委員 能登というと、石川県じゃない。

○東嶋委員 能登は石川県ですよ。

○吉岡委員 感覚からいえば、中越沖地震に能登も加えた方が、場所が真ん中だから。

○中村座長 でも、抵抗感はそんなにないみたいですけどもね、やはり。

○新井委員 別に加わってもらってもいいわけでしょう、それは、必要であるんだつらばね。

○中村座長 それはそうです。

○近藤原子力委員長 だから、ここは横浜市から1人になっているけれども、そこはおっしゃる能登の人がいても、それこそ近隣の地元の志賀町の人が入っていても、おかしくはないということはある。

○小川委員 柏崎の方をお1人にして、ここでは横浜に当たる人、地元の人を、富山の方と能登の方というのもいいかもしれませんね。

○中村座長 その辺はありますね。横浜については、とにかく大消費地なので、会場の皆さんが主役なので、このパネリストとしてというのは、本当に誘い水的なご発言があればいいという感覚でしたので、あまり人数についても増やす気はなかったということなんですけれども、富山でやるとなったら、地元という範囲を広げて、柏崎刈羽関係の方というのを少し絞っても、それは構わないし、あるいは全体的にもう1人ぐらい増えても、それは構わないということですね。

○小川委員 そうですね。もしあれだったら、東電さんと北陸電力さんはどうかななどとちょっと思ったんですけども、どうですか。

○中村座長 ただ、一応、やはり「中越沖地震に学ぶ」なので、そこで北陸を出すと、北陸がまた大変なことになると思うので。

○近藤原子力委員長 議論がおかしくなっちゃう。

○中村座長 ええ、それはまたおかしな話になる可能性があるんで、それこそまた「地震の話がメインなのかい」ということにもなりかねないし、それから違う意味での電力会社の情報公開や対応の話になったりというのもまたあり得るので、ここはあくまでもこのタイトルでいくと、事業者としてはやはり東電だけでいいと思うんですよね。

ただ、地元の方の幅を考えると、柏崎については、自治体は確定としても、一般市民の方についてはもうちょっと考えてもいいと。吉岡さんの折衷案を、たたき台にするのがいいんじゃないですかね。入倉先生、松原先生は、本当にもうすぐにご出席のご依頼をして、これから日程を絞っていきますけれども。それから、柏崎、刈羽にも話をさせていただく。それから、東電にも話をさせていただく。地元と柏崎については、一応、また地元とお話をさせていただくと。結果的に、観光協会は要らないということになるかもしれないし、いや、観光協会が残そうという話になるかもしれない。その辺は、若干、交渉のところだと思えますけれども。

基本的にパネリスト、ご発言いただく方については、そんな想定でよろしいですか。

○小沢委員 いいですよ。柏崎のこのパネリストは、1人、お役人じゃないですか。

○小川委員 ええ、そうです。だから、自治体、要するに防災の中心というか、当事者ですね。

○中村座長 自治体は、やはり最低1カ所は必要だと思うんですよ。だから、それは刈羽村になるか、今回は柏崎市なんですけれども、刈羽にももちろん担当がいらっしゃいますから、刈羽でも構わないんですけども。

○小沢委員 ただ、それがやはり統計だとか、こういうことがあったとかと説明できるのと、それからもうちょっと、水がなくてトイレに行けなかったみたいなことを言える人とかというニュアンスは、この2人のうち1人にしてもらおうとかすればいいんじゃない？もし、能登と富山と両方なら。でも、いっぱいしゃべりたい人たちがいるんじゃないかと思うから、我々はもういいわけですよ、ここでごちゃごちゃ言っちゃえば。もう聞いているだけなんだから。

○中村座長 まあ、そうなんです。我々は本当に聞く立場なので、ある程度の人選については、我々も希望はあるけれども、本当にオープンにしていろいろなことを聞くというのが基本姿勢であることは間違いないので。

○小沢委員 そういうことにしましょう。

○中村座長 では、そんなことで、逆に日程をちょっと絞っていきましょう。

○新井委員 それをもう早く決めてください。

○中村座長 それで、事務局は大変なんですけれども、私のなるべく横浜から間をあけずにやりましょうというのにご賛成いただけるとすると、もう12月の足かけの第3週になるのかな、10日から15日の間とか、遅くとも次の週、20日までの間にやりたいと。それを過ぎると、やはり年末態勢ですからね、お互いに。

○新井委員 私は、９日から１５日までバリ島でのんびりしておりますので。

○中村座長 では、英気を養って、翌日あたりやりましょうか。

○新井委員 翌日は、石油審議会がありまして。バリ島は遊びじゃありませんで、会合があるものですから、スタッフに連れられて。

○中村座長 準備、告知、いろいろなことを考えると、１０日ぐらいというのはやはりちょっと厳しいかなと思うので、その次の週の１７日から２０日の間などというのはどうですか。月曜から木曜までの間。

○小川委員 賛成、いいです。

○近藤原子力委員長 原子力委員会はきついな。

○東嶋委員 忙しいな。このときが一番、締め切りの的には忙しいな。

○小川委員 私は、１２月は全然平気、今のところ。もっとも、１カ月前ですけどね、埋まるのは。

○東嶋委員 もっと年末の方が、締め切りの的には楽なんですけれども、この時期が一番忙しいんですよ。

○中村座長 年末は、地元の方のことを考えるとどうなんだろうと。

○東嶋委員 ええ、そうなんですけどね。

○中村座長 ２５日と２６日に来てくれるだろうかという。

○小川委員 それはちょっと非常識みたいな感じが。

○中村座長 やはり２０日まででしょう、１２月にやるのなら。

○小川委員 ２０日までですね。

○中村座長 去年、松江も上旬だったんですけども。

○小川委員 そうですね。

○小沢委員 １７日とか１８日ぐらいなら、ちょうどいいんじゃない？

○中村座長 新井委員は、何日から何日でしたっけ。

○新井委員 私は、９日から１５日までですけども、実質的にはこの１０日の週が、１週間全部、向こうに行っていますね。

○小沢委員 だから、１７日か１８日にすれば？

○新井委員 いやいや、私は出なくてもいいんですから、お決めください。

○小川委員 だから、全員がというのは無理かもしれない。

○小沢委員 無理だから。私なんか、何の約束もしない。あいていれば来ます。

○近藤原子力委員長 １７日は、私、大臣級会合があるから、どうしてもだめなんですよ。東京を離れられない。

○中村座長 その前はどうなんですか。

○近藤原子力委員長 前ならいいんですけども、この週は１７日、１８日だと無理ですよ。だから、その前にしてくれると大変ありがたいんですが。



○小沢委員 10日ごろにする？委員長は。

○近藤原子力委員長 私は、10日の週でしたらどこでもいいです。でも、新井さんが出られないですよ。

○中村座長 うん、新井さんがいらっしゃらないので。

○新井委員 いや、関係ないですから、皆様の可能なご都合で。

○近藤原子力委員長 でも、17日以降だと、本当に大変になるね。

○中村座長 16日の日曜日にやるという手はありますけどね。

○新井委員 朝に帰ってきますけど、幾ら何でも無理ですよ、それは。お断り申し上げます。

○中村座長 それと、どうでしょう、12月ではあるんですけども、平日午後から夕方にかけての開催か、夕方ぐらいからの開催か、あるいは土日の午後ぐらいの開催か、その辺はあまり大勢、影響はないですかね。

○小沢委員 でも、あまり遅くなっちゃうといけないから。夕方、それもどこかでやると寒いし。

○小川委員 10日の週というのは大丈夫なんですか。

○中村座長 日曜日の午後ぐらいならいいんじゃないかな、だめ？

○小川委員 日曜日でもいいですけど、新井先生はいらっしゃらなくて。

○新井委員 私はいいですから、私の都合を言っただけで、あまり……。

○小川委員 だから、10日の週。委員長が17日、18日はだめだということで。

○中村座長 そう。だから、次の週になると委員長がだめということは、委員会と事務局がほかで対応が大変な時期らしいので、それを逆に外して、その分繰り上げるけど頑張ってくださいということにして、10日の週にやるかという。

○小川委員 10日の週の後半だったらね。

○中村座長 それも、平日にするか、土曜の午後ぐらいの方がいいのか。どうなんですかね、地方中核都市のライフスタイルとしては。土曜日の午後などというのも出やすいのどうか。

○小川委員 いろいろな立場の方がいらっしゃると思うんですよ。

○近藤原子力委員長 必ず批判があるよね、どこでやろうと。

○中村座長 それはそうなんですけれどもね、万人がオーケーという時間帯、曜日設定はないので、決心するしかないんですけど。

ただ、富山なので、なるべく早くしたいというのは、冬だということが。年が明けちゃうと、やはり冬が厳しくなりますよね。だから、12月にやりたいということと、それにしても、やはり日没の時間が早いので、これはほかでも言われたことですけども、特に主婦層がもし来てくださるとしたら、やはり4時ぐらいには終わっていないと、買い物して、うちへ帰って食事の支度というのがあって、これが5時半、6時までやられたらとてもと

いうのは聞いているので、その辺で考えると、土曜にするにしろ平日するにしろ、1 時ぐらいから始めて4 時ぐらいには終わらないとなという感じなんですけどね。

○小川委員 1 時から4 時ですよ。

○小沢委員 それは決めちゃいましょう、1 時から4 時。

○中村座長 特に地方都市の場合は、それぐらいの時間帯じゃないと厳しいんですよ、参加者の方のことを考えると。

○中村座長 では、1 3 時－1 6 時、まず時間を。

○近藤原子力委員長 日にちが決まっていなくて。

○小沢委員 それで、日にちがないとしたら、もうしょうがないから日曜日とかと決めちゃうしかないじゃないですか。富山で聞いているわけじゃないんだからね、我々。富山の皆さんに聞いているわけじゃないので、結局はこっちの都合で、想定範囲内でやるしかないんだから。

○小沢委員 真ん中以降は厳しいと思いますよ。商店もあるし、いろいろお金の勘定とかもあるし。

○小川委員 1 2、1 3、1 4 日で、皆さんが一番集まれる日。

○近藤原子力委員長 週末というか、ウィークエンドで土日やるか、平日やるかということで。

○中村座長 いろいろな考える要素というのはあるんだけど、報道のことなどを考えても、とにかく4 時ぐらいに終わるといえるのはいいんですよ。ローカルの5 時半から6 時台のニュースに載れるというのがあって、新聞も書けると。ゆっくり読んでもらうのは、次の日の新聞が日曜の方がいいかなというので、「じゃ、土曜日にやるか」というのも1 つあるんですけどもね。

○小川委員 たくさん書いてくれると、うれしいですけども。

○近藤原子力委員長 それはうれしいですよ。

○小沢委員 あまりならないんじゃない。喧嘩でもすれば別だけど。

○中村座長 1 5 日土曜日の午後というのは、1 つあるかなとも思うんですけども。

○出光委員 あとは、専門家の方のスケジュールがあるから、大体このあたりでということで、まずパネラーのスケジュールがそこで合わなかったら、やり直しになっちゃうので。

○浅田委員 あと、五十日（ごとうび）というのを嫌う方たちがいらっしゃいますけれども、富山は大丈夫でしょうか。

○小川委員 1 2 月ですしね。

○中村座長 商売の人は、みんなそうですね。

○近藤原子力委員長 1 5 日だから？土曜日でも？

○中村座長 土曜日だからね。

○浅田委員 そこがよくわからないので、私は。確かに、車や金融機関とかは混みますよ

ね。この日は金融機関がないから、いいのか悪いのか、どうなのかしら。

○近藤原子力委員長 土曜日だからな。

○中村座長 この辺で、では平日開催がいいか土曜開催がいいかというのも、あまり結論は出ないので、日程的に可能なのはどうもその辺なので、例えば13、14、15日、木、金、土を候補日にしておいて、パネリストの皆さんのスケジュールを当たって、あと、会場ですよ。この辺をちょっと当たって、土曜日だったら土曜日、平日なら平日、どっちでもいいやということで、1時－4時でやりましょうか。

○小沢委員 はい、そうしてください。

○東嶋委員 すみません。私は、木、金がだめなので、11日から15日までを、候補に入れていただけないでしょうか。

○中村座長 では、一応、10日の月曜日から15日の土曜日までを候補週間として、それで一番確率の高い、パネリストと委員の出席の多い日程で、もう決めていきましょう。それが固まったら、プラス・アルファのパネリストについては、その日程で交渉すると。会場の方も、その辺を候補日で当たってもらうということできましょうか。

○中村座長 では、候補日を、12月10日から15日の間。何となく、できれば15日土曜日というのに皆さん合うと、いい感じもしますね、土曜午後というのは。委員長は、すぐ帰ってこなきゃいけないかもしれませんけれども。

○小沢委員 私は、もう皆さんに全部従います。

○中村座長 会場はまたそっちの方のプロがいますから、その辺に相談してみますので。

場所は、ホールのようなものが無理だったら、150人から200人ぐらい集まるところならば、例えばホテルでもいいですよ。

では、基本的にそういう方針で、富山については進めましょうか。

それで、この後のことなんですけれども、まずその富山の具体策を検討するために、横浜が終わった後、11月中に1度、この専門委員会を開きたいと思います。これはまた、事務局で調整してもらいます。それは、ある程度、29日のアンケートや何かのデータも出たところでということになると思います。

それからあわせて、そのときにまた、新年を越えてから年度末までのことも皆さんと議論したいし、当然、富山が終わった後も、1度、集まりたい。できればもう1回、3月までにやるについて、どういうテーマでどういう方針でやるかということ、この辺はまだ新委員会になってからあまり議論を深めていないので、ぜひそれをやりたいなと思っていますので、11月、12月、1月と、多分、皆さんの日程調整が大変だと思いますけれども、ぜひご協力いただいて、たくさんのご出席でいろいろ話し合えればなと思っていますので、よろしくお願いいたします。

○新井委員 11月は、ここで大体、固まりませんか。

○中村座長 11月、固めましょうか。

○新井委員　せめてそうしていただければ。

○中村座長　11月、実は頭の1週間は、私、ちょっとアンコールワットへ行っているものですから。これも一応仕事なんですよ。ですから、6日までだめなんですけれども、29日にやって、資料整理をしていただくとして、連休明け。

○新井委員　どこかの週で、ずっと大体切り取っちゃうというのはだめですか、それは。皆さんが一番多く出られるところ。

○中村座長　でも、やはり富山をその週にやるとすると、その1カ月ぐらい前にはやりたいですね。

○小川委員　それと、横浜の反省会だから。

○中村座長　もちろん、そうですよ。

○新井委員　午後でしょう。

○小川委員　なるべく早い方がいいですよ。

○浅田委員　アンケート結果のデータなどもあるし。

○小川委員　座長がお帰りになる12日の週。

○中村座長　7日からは大丈夫ですよ。6日に帰ってきますから。

○浅田委員　では、7、8、9日。

○小川委員　7日はかわいそう。

○中村座長　いや、7、8、9日は大丈夫ですよ。

○小川委員　6日に帰っていらっしゃるんですか。

○中村座長　ええ。

○小川委員　いやいや、すぐだからと思って。

○中村座長　いや、それは大丈夫ですよ。

○近藤原子力委員長　いいよ、時差のないところだから。

○小川委員　ないですか、カンボジア。

○中村座長　大して時差はないよね。その日に帰れるから、大丈夫。

○東嶋委員　ほとんどないです。

○中村座長　せいぜい2時間とか3時間の話だから。

○中村座長　だから、その7、8、9日か、休み明けの12、13、14日、この辺のどこかですね、1カ月前だと。

○浅田委員　そうすると、12月は大丈夫ですかね。

○新井委員　7、8、9日なら7、8、9日で、午前・午後で、皆さんがずっとだめなところをやってしまえば決まりますよね。

○中村座長　決めますか。では、7、8、9日、午前・午後。

○〆委員　7日の午前。

○小川委員　だめな人が手を挙げるんですか。

- 中村座長 はい。
- 小川委員 7日。
- 中村座長 7日はN G。
- 小川委員 7日は、1日だめです。
- 東嶋委員 7日の午前。
- 出光委員 私は、このあたり一帯だめなのだという感じです。
- 中村座長 では、7日は消えました。
- 8日午前、都合が悪い人。午前は、あまり僕も得意じゃないので、午後の方がありがたいんですけどもね。
- 8日午後。
- 岡本委員 午後はだめですね。
- 小沢委員 午前って、何時ごろ？10時ごろ？
- 小川委員 10時から。
- 小沢委員 10時－12時。
- 中村座長 8日午後というのが、一応、岡本先生だけかな、都合が悪いのは。
- 出光委員 私も、この辺はずっとヨーロッパに行っていますので、すみません。
- 中村座長 出光先生は、いつまでヨーロッパ？
- 出光委員 18日までです。
- 中村座長 それでは、ちょっと出光先生は考えないことにして、後で書類で見ていただくことにして。
- 出光委員 ええ、無視してください。
- 小川委員 では、8日の午後。いいですか。
- 新井委員 8日午後がいいですか、何となく。
- 中村座長 8日午後でいいですか。
- 小沢委員 8日午後で結構です。
- 中村座長 事務局的には、時間的にはこの辺で大丈夫ですか。というのは、ある程度、これは富山のことも固まっていないと、ちょうどプレス発表のころだからね、これは。この次の週ぐらいにはプレス発表しなきゃいけないと思うので。
- 小川委員 アンケートは、1週間ぐらいで出るんですか。
- 事務局 アンケートは、大体、通常でいくと2週間ぐらいでまとめているので。
- 岡本委員 1週間ぐらいはかかりますよね。
- 小川委員 1週間ですよ。だから、大丈夫。月曜日にはあると。
- 中村座長 何といったって、事務局はこれだけしかないものですから。
- 小沢委員 何かこれを読んでこいとか、分ける部分は、分類なら手伝いますけど。
- 近藤原子力委員長 大丈夫だな。

○中村座長 大丈夫ですか、8日。

○事務局 はい、何とか。

○中村座長 では、ちょっと無理をいいますが、8日午後ということで、次回の委員会をお願いします。

あとは、会場等の関係で14時開始でも15時開始でも構わないですけれども、準備の都合で結構です。

○事務局 はい、わかりました。

○中村座長 では、8日午後ということでやりましょう。そのときに、富山のことは具体化できる。

○近藤原子力委員長 私はちょっとその日、少しいないので。

○中村座長 そうですか。委員会の日ですね。

というところで、一応、今日ご審議いただく件は以上で、若干、時間の余裕があるので、最後に事務局から連絡事項をあれしてもらいますけれども、その前に、先ほどから申し上げておりますように、横浜・富山をやって、できればもう1回、年度内にやりたい。当然、新年度も、できれば3回ぐらいの開催を考えていきたい。今までの反省からいうと、どうしても新年度に入ってから立ち上がりがなかなか難しく、第1回開催が9月になってしまったりということがあったので。

○小沢委員 何であれば遅れるのか。でも、誰も事情はわからないのよ。

○小川委員 でも、予算がつかないんでしょう。

○中村座長 国全体がそうなんです。夏までは、ほとんど機能していないんです。

○近藤原子力委員長 いや、今度はそうはならぬと思いますよ。

○中村座長 その辺は、前から割にうるさく言っていて。

○小沢委員 今年だって5月か6月、そのころでしょう、1回目の会議。今年、木元さんがお辞めになった後に1回、委員会があって、その後、私は南米に行っちゃったから知らないだけで、いつやったのかわからない。もうちょっときちんとやりたいと、やったらいじゃないですか。

○中村座長 うん。そのことは、前々から申し上げていて、原理的には4月1日の新年度から事業ができないのはおかしいじゃないかというのが僕の考え方なんだけれども。

○近藤原子力委員長 どうぞコンティニアスに、別に年度を区切って考えているわけじゃないので。

○小沢委員 また変わっちゃったりね、人がみんないなかったりするから。

○中村座長 それはありますね。多分、異動はありますよ。

○小沢委員 それだけですね。だから、申し送りをちゃんとしていただいて。

○中村座長 でも、3月、3月と言っているのは、やはりその意気込みでやりたいんだけど、万が一これから、その3月を目指していても年度がまたがったとしても、問題な

く実行しましょうねという話なんですよ。それを、やはりやりたいなと思っているので。

○小沢委員 わかりました。

○新井委員 柏崎へは、いつごろ行くつもりなんですか。

○中村座長 柏崎はいつにしましょうね。その辺は、またこの間もちょっと委員長とあれ  
して、情報収集との関係なんですけれども。

○小川委員 柏崎にも行きましょうというのがあったんです。柏崎で市民懇をやりましょ  
うという話があったんです。

○小沢委員 やった方がいいね。

○中村座長 思い出していただいてありがとうございます。これは、やはり継続して、情  
報収集と委員長のご判断もいただきたところなので、その辺は。

○近藤原子力委員長 東京でもやってほしいと思っていまして、いろいろ注文はたくさん  
ありますので。

○小沢委員 ちょっとさっきの件で、聞いていい？全然別のことで、何か後ろに、燃料棒  
の抜き取りが発見されましたというのは、11日ですよ。これは、この日程表でいうと  
何に当たるのか、原子炉開放関連なんですか。どこ？

○小沢委員 原子炉開放関連、一番最初の項目の中ですか。14日から20日までの工程  
に入る部分で抜き取って見たわけ？

○事務局 7号機の炉内点検の中で、ここをした際に、あわせて検査を。

○小沢委員 ほかは完了しちゃっているんだから、ここだけ？

○近藤原子力委員長 そうです。この炉内点検というところが、今、入っていますね。

○小沢委員 「原子炉開放作業完了」というのが、1つあるでしょう。そうすると、容器  
じゃなくて炉内点検ね。これか。

○近藤原子力委員長 はい。

○小沢委員 いや、それだけなんです。一体、これは終わったものとか終わっていないも  
のとかいろいろあったので、この工程表のどれに当たるのか。7号機の炉内点検。11月  
までやる中の一つが出てきたわけですね。

○中村座長 そうです。昨日、その引き抜きをずっとやっていたら、百何本目かで取れな  
いが出てきたという。

○小沢委員 嫌がっているものが、1本あったわけですね。何か電気系統がとか、どうや  
って抜くの。抜かないでそのままにしておくの。さっき質問すればよかったんだけど。

○事務局 要は、電気の駆動系で、モーターでそのまま制御棒を下に引く抜く機構になっ  
ておるんですけども、その1本が、つながるところがつながってなくて、機構は下が  
るんですけども、燃料制御棒が下においてこなかったという形でございます。

○小沢委員 でも、抜けるの。取れるの。

○近藤原子力委員長 それはわからない。しかし何の問題もないです。

○小川委員 今、燃料はもうないんですよ。

○小沢委員 ないんだものね。みんな空になっちゃって、その空になったところに制御棒がくっついていたってしょうがないじゃない。

○近藤原子力委員長 上から取っちゃうのはやばいんじゃないかと、いろいろ。まあ、行ったら説明してもらいます。

○中村座長 制御棒は入らないと困りますけどね。

○小沢委員 うん。そのまま残っていて、抜けもしなきゃ、動きもしないなんというのがあるって、またそれが文句になったり、「何でもないです」と言ったって、「抜けるべきものが抜けなきゃいけないんだ」とかね。

○中村座長 多分、だから駆動装置で動かなかった、駆動装置で抜けなかったということなので、それはもう少し、逆にプリミティブな方法を使えば。

○小川委員 引っ張ってやって、何か。

○小沢委員 引っ張って、上から。チェルノブイリになったとか、何もないんだから、引っ張ればいいわけね。

○小川委員 いずれにしても、下を抜かなきゃいけないんですけれども、とりあえず上に上げてみて一度整備して、もう1回入れるとか。

○小沢委員 もう、それって記事が割と大きい見出しになって、「制御棒抜けず」なんて出ていたじゃない、新聞に。抜けないと何が起こるのかという、そのことさえわかればいいわけよ。

○小川委員 イメージ的に、燃料があると思っているから、みんな「わあ」とかと思っちゃう。

○事務局 一応、抜けないままだと、運転再開にちょっと支障があるということでございまして。

○近藤原子力委員長 制御棒は入れることが仕事で、抜くことはどうでもいい。

○小沢委員 考えられていなかった。

○中村座長 いやいや、考えているんだけど。

○小沢委員 考えているんでしょう。

○近藤原子力委員長 とめるために入れるんだから、入れるためのものなので。

○小沢委員 だから、どうして抜けないのかと、錆びたの。

○近藤原子力委員長 それは振動して引っかかったかもしれないですよ。だけれども、そんなことはどうでもいいので、また取りかえればいいじゃないかと。あれは、取りかえるものですよ、ほとんど。

○小沢委員 でも、抜かなきゃ取りかえられないんでしょう。

○近藤原子力委員長 だから、取りかえるのは下まで抜くの。上から抜くんですよ、もともと。



○小沢委員 上から抜けるわけね。

○近藤原子力委員長 抜けますよ。

○小沢委員 こうやったら抜けなかつただけなんだ。

○傍聴者 東京電力の田中でございます。

今は、燃料を全部抜いてしまっていてありますので、その制御棒が炉心の中に要らないということで、下へ抜こうとしました。それが抜けなかったと。今、通常の作業をしていますので、それにあまり手をかけたくないので、やがてはカメラをおろして調べたり、最後は制御棒自体を下の駆動部分と離しまして、上へ抜くこともできます。そういう作業をこれから計画するというので、今は、とにかくちょっと普通じゃ動かないなというのが見つかったので、慌てて公表させていただいたという段階で、もう少し調べないと、原因はわかりません。

○中村座長 とりあえずは、そのままにしておいてどうってことはないということですね。

○小沢委員 聞かれるわけですよ。「制御棒が抜けなかったんだって」「えっ、制御棒が抜けなかった？それは何だ」とか、私なんかいつもあたふたして、「何だっけそれ、中で引っ張ったら抜けないのかね」とか、そんなばかな話になるんですよ、いつも、お婆さんたちがしゃべっているのを聞いていると。結構みんな、原子力は怖いんですよ、あの地震以来。イタリアのサッカーチームじゃないけど。

○中村座長 停止しているんだから、今は。

○近藤原子力委員長 どこかの新聞社が、「制御棒って入れるものなんだから、抜けなかったって騒ぐ必要ないじゃないか。燃料はないんだって。何騒いでるの？」とか言ったから、「いいですかね」とか言って、みんなうなっていたけれど。

○小沢委員 「抜かなくてもいいものを抜こうとするから、抜けないんじゃないの」とかいろいろ、「そんなことないんだよ」とかと言うんだけど。

○小川委員 それは、抜かなきゃいけないときには抜かなきゃいけないけれど。

○小沢委員 「抜かなきゃいけないときに抜けないというのはまずいんでしょう」とかね。

○中村座長 関心を持っていただくのは、大変ありがたいですよ。

○小沢委員 大変ありがたいですよ。それで私もわからないから、「そう？抜けないものもあるのよ、中には」とかさ。

○中村座長 それでは、早く終わってもいいんですけども、あとせめて10分ぐらい。

○出光委員 すみません。横浜はちょっと遅れて参ります。1時半には参りますので。

○中村座長 それで、ちょっと委員懇談会でもないですけども、何か普段お考えのこととかがあればお聞きしたいのと、それからせっかくですから、委員長、具体案はまたみんなで検討するにしても、これからの進め方の中で、ぜひこういうのは扱ってほしい希望があるんだとか、こういうところでやってほしい希望があるんだとか、もしその辺がありましたら、一応、我々にインプットしておいていただけるとありがたいんですけども、い

かがでしょうか。

○近藤原子力委員長 まだやっていないテーマは、例の高レベルの問題があるんですよ。ですから、それについて、いろいろな考え方としてあるんですけども、例のイギリスのコールドンという廃棄物対策の政府任命の諮問委員会のチェアマンが今日来て、それでちょっと意見交換したんですけども、彼は非常に自慢げでもあり、大学の仕事をサボっていたから今日でもう辞めるんだとかといって、次の新しいところに行くというんですが、要するにイギリスは何をやったかという、結局、地層処分という方法しかないねということを決めるのに、700回も非常にたくさんの会議を精力的にやって結論を出したということが、democratic societyの見本だということで説明しに来たんですけども、それで、それはいいんですけども、それから先、どこにサイトを決めるとなったら、あなたの経験で本当にいけるのかと言ったら、「いや、それはまた違う問題だ」とかと言って、でもって、自分は辞めるというんだから、結論ではないんだけど、それは置いておいて、彼がやったことの新しいのは、citizens panel、市民のパネルを結構たくさんやっているんですよ。イギリスは、ちょっとずるいというか、今のいろいろな意味の政策のパブリックコメントの際にも、政府は世論調査からのランダムサンプリングで市民をピックアップして、そこでかなりきちんとした情報を提供して意見を集めるというやり方をするので、割と市民との対話について、いろいろソフィスティケートな方法を持っているという感じはちょっとするんです。市民パネルというと、我々のこの市民懇もその一つで、全く違うとは言えない、似たところはあるんですけども、彼らのやっているのは物すごく時間をかけているんですよ。ちょうど、裁判員制度のコンセプトに近いんですよ。

だから、それが日本でできるのかどうかというのも悩ましい話なんですけれども、ただ、立地の問題というのは、結局、今あの制度は、市長さんなり村長さんなり町長さんに物すごく負担がかかって、彼らは意思決定者と、市民グループの中でやりたいという人とやりたくないという人の、いわゆる調停者の役割もお願いしていて、2つの役割を同時に1人をお願いしていること、しかも、同時に発生するということに対して非常に問題だといって、今、当初ある期間は、市長さんなり町長さんは調停者の役割に徹していただくような仕掛けを用意しないといかぬ。逆に言えば、論争の場から市は第三者的に身を引いていられるようにしてあげるといような仕掛けにしないといかぬと。これが、国がそこへ出ていくというのは、日本の地方分権になじまないとかなじむとかという議論になっちゃって、国が市に関わることにについて、会を主催するわけにいかぬ。そうすると、誰が主催者になり得るかということがやはりあるんですよ。それが、例えばある種のacademic societyとか何らかの団体が、そういう市民の間の議論の場を用意することができれば、それを見て市長が判断できれば、それは美しい話としてあり得ると思うんですけども、そんな仕掛けの設計はどうしたらよいのかなと。そこで、「それを原子力委員会がやれ」という声もないわけではないんですけども、まさにそれをやるのが本来の市民懇の理想じゃない

かという議論もあるのかもしれないと思いつつ、そこはしかし、国が出張るということにはなりますよね。ただ、原子力行政だったら、原子力委員会が出張るのはいいじゃないかという議論もあるのかもしれないと思いつつ、まだ悩んでいます。

○小沢委員 地域にいないから、無理ですよ。

○近藤原子力委員長 地域にいないから、無理ということですね。

○小沢委員 こういうのはみんな空中楼阁ですから、向こうはみんな、地域と行政のパイプとが全然違うじゃないですか。だから、それを日本でやるのは相当大変ですよ。

○近藤原子力委員長 それが1つで、もう一つは、少なくともその推進をNUMOがやっているわけですね。それに対する監査というか評価というか、第三者的な意見を言う機関をちゃんとしたらよいと。今、評議委員会というのがあるんですけども、どうもやはり自分の組織のための評議委員会で、自分でメンツを選んでしまうから、あまり変なことを言う人は入れないという格好になってしまうんですね。

○小沢委員 そう。文句を言う人は、すぐ嫌うでしょう。

○近藤原子力委員長 だから、そこを聞くとコールドンは、結局、内閣総理大臣と、それから議会にレポートすることになっているんですよ。カナダも似たシステムをつくっているんですけども、カナダもやはりプロモーターは、産業界なんですけども、そこに対するadvisory committeeは政府指名なんですよ。レポートは、政府に示すことになっているんです。

日本の場合、NUMOの評議委員会というものが、レポートを本当はNUMOにするんじゃなくて、その上の行政なり、例えば経産大臣にするとか、そういうような仕組みにしてもらうのがあるのかなと思ったりもしているんです。今、向こうで審議中ですから、あまり言うのはちょっと問題かなと思うんですけども、このことについても少し、workabilityというか、実際に、まねごとと言ってしまう言葉が悪いんですけども、例えばそういうフィクシヤスな、バーチャルなシステムをつくってみて、ここでオペレートしてみても何が問題かということをやっていただくというのがあるのかなと思ったりしまして、ぜひご検討いただければ。

しゃべると、すぐ3分たっちゃうんですけども。

○中村座長 そういう全体的な高レベル、最終処分については、システム設計の問題も合って、今のNUMOがやっているだけではというのは、多分、共通認識としていろいろなところにあって、これをやっていかなきゃいけないと思うんですけども、我々市民懇としても、これは取り上げたいテーマではあるんですが、具体的に、じゃ、どこへ行って何を聞くかというところが非常に難しい部分なので、本当にこれからまたいろいろ皆さんのご意見を伺いながらということ。

○新井委員 全く余談でいいですか。ちょっと内閣もいろいろ変わったりして、憲法問題というのはあまり論議されませんが、私はたまたまあるところでも書きましたけれ

ども、憲法条文の中に原子力が盛り込まれているという国が幾つかありますね。例えば、ドイツの憲法で上がっておりますし、それからソ連も憲法に載ってきます、たしか「原子力」という名称は。そのぐらいのレベルで、せめてエネルギーぐらい、新しい憲法ができるのであれば入れるぐらいの気概を持ってくれませんか。韓国も、たしか「資源」という形で入っていますし、もちろん中国も入っていたと思いますし、憲法をずっと読んでいくと、なかなかきちっと入っているんだなというふうに思いまして。

○小沢委員 どういう形で入っているんですか。

○新井委員 ドイツの場合は、ドイツ基本法といいますか、ほとんど総括的に網羅的な憲法なので、あの場合はちょっと特別なかなと思いますが、政府はこういうことをやるべきだというのは、規定がきちっと入っていますね。

○小川委員 研究開発の対象としてとかですか。

○新井委員 一つ一つは、今ぱっとは出てきませんけれども。

○近藤原子力委員長 科学技術がないんだよ、日本の憲法には。

○吉岡委員 前文にもないし。

○小川委員 科学技術はない、前文にはないですよ。

○新井委員 ですから、そういうものがあるわけでしょう。だから、どうせやるのなら、そういう部分を含めて、これだけの無資源国で云々と言っているんですから、もちろん大きな問題は別にあるんでしょうけれども、それと同時に、そういうものもきちんとやった方がいいぐらいのことを、どこかで近藤先生が言えば、少しは何とか国も聞くかなと。

○中村座長 逆に、あれかもしれないですね。今のベネズエラのような資源国の方に、逆に入っているかもしれないね。

○新井委員 わかりませんけれどもね。あと、スイスの憲法は、エネルギー条項がありました。内容は「省略」となっているものですから中身は全然読んでいないんですけれども、エネルギーという条項は入っていたことは事実です。ドイツは、かなり詳しく書いてあるんですね。

○近藤原子力委員長 そうですか。勉強しなくちゃいけないですね。

○新井委員 なかなかおもしろいですよ。そういうのが、憲法と一口に言っても幅広いし、細かく規定しているのもありますし、エネルギーが入っているので、本当に私はびっくりしました、「こういうものもあるのか」と。もちろん、フランス、アメリカあたりは入ってきませんけれどもね。

○吉岡委員 春に何をやるかということですが、1つのオプションとして地震の問題を引き続きというのはあり得ると思いますけれども、近藤委員長のおっしゃったことを私流に言いなおすと、高レベル廃棄物処分の制度設計あるいはシステム設計のアセスメントというのはおもしろいテーマであって、恐らくこれはローカルではなくてナショナルな形で、つまり東京でやることで、別にメンバーも公募するとか、そういう形でまずやって

みてはどうですか。

○中村座長 ローカルですと違う思惑が働いちゃいますよね。そこが難しくて、だからやるのならやはり東京で、言われるようにオールジャパンにして、市民という立場もちょっと広げて、どちらかという、はっきりした専門的な発言ができるような人のシンポジウムみたいな形の市民懇というのものもあるかなとは僕もちょっとと思って、具体的にこの今までのスタイルで、地層処分とか最終処分をテーマに、特にローカルへ行くというのは、どこへ行くかというのが本当に、「うちは候補地なんですか」という話になるしね。

○小沢委員 円卓会議みたいなものは、今、ないんですか。

○近藤原子力委員長 ないんです。だから、シリーズで10回やると決めて、全国どこでやったらいいかと先に行かせるという手もあり得ると思いますけれどもね。

○小川委員 キャラバンをやればいいと。

○中村座長 これを、ある程度のやはり中核都市10カ所ぐらいでやるというのは、あるなとは思いますがね。

○小沢委員 田舎へ行ってやった方がいいんじゃない？そんな中核都市に行くより。山の奥へ行って。

○近藤原子力委員長 中核都市は要らないんだ、本当は。

○中村座長 いや、本当はピンポイントで、膝詰めで話をしたいというところは当然あると思うんだけど。

○小沢委員 いかがですか。その方がいいと思うな。ヒールになってやったら？

○近藤原子力委員長 保安院が、たしか安全問題について膝詰めでやるというので、20人ぐらいで小さな、泊村とか、そのスケールで閉じた会合をやって、ざっくばらんベースの話を聞けてよかったと、かなり言っていますけれどもね。

○中村座長 候補地の問題はまた別なんだけれども、発電所立地というのはあると思うんですよ。結局、ここで発電が終わった先のことを、皆さん考えていますか、知っていますかというところで話すというのは、あるなとは思っているんですね、立地については。

○小沢委員 でも、「発電が終わったから、さあ、今度はごみを持ってきますよ」という見出しになっちゃって、また要らざる強風が。

○小川委員 でも、やはり高レベルのときに初めて原子力に触れたという土地の人は、非常に難しいんですよ。だから、「発電もして、高レベルもうち？」という問題はあるけれども、住民の皆様方に原子力の知識はあるというメリットはあるというか、話しやすい雰囲気があるのではないですかね。

○近藤原子力委員長 今、関心を持っているのは産廃の処分場です。あれは、結局、地方自治体の中で処理しているんですけども、全く民主的にやったら、結局はこの地域の中でとんでもないお金が動いているとか、いろいろあると思うんです。それが、むしろ勉強して、日本の文化じゃそれしかないんだと定めて、それをむしろやっていくという手も

あるかもしれないということですよね。いや、松田さんがごみの話は詳しいというから、ちょっと調べてみようと言っているんですけどもね。

○小沢委員 横浜は文化施設が一番多い、埼玉は産業廃棄物の処理場が一番多いと。あれはごり押しですよ。「あっ」と気がついたら、ごみはあった。

○小川委員 一般の廃棄物って、意外とそういう感じでできていますよね。

○中村座長 そうですよ。自治体をまたがって行っていますよね。

○小沢委員 ただのごみじゃない、廃棄物ね。

○近藤原子力委員長 結局、岩手の山の中にあったというような話だよな、それは。

○中村座長 テーマとしては、それだけではないと思いますけれども、ただ、国全体というか原子力政策の中で、やはりこの最終処分の問題というのは、今、かなり深刻なところで、この間までは本当に2020年だ、2030年だという話だから、のんびり構えていればいいんだみたいなところがあったけれども、2020年、2030年はすぐ来ますからね、このペースでいくと。

○小沢委員 ほかに高レベルのああいうものはやっていないんですか、今。やっているんでしょう。

○近藤原子力委員長 いや、やっています。ただ、このスタイルの、私の表現は悪いんですけども、パブリック世論のショーウィンドーという仕組みは、確かにあまり持っていないんですよね。だから、それはそのモデルと言え、もちろんいいんですけども。

○中村座長 多分、この問題は、何かのチャンネルだけで解決することじゃないので、あらゆるものを駆動しなきゃいけないんだと思うんですよね。その中に、多分、この市民懇のスタイルというか、あり方というのが、多分、一つ期待されているところがあって、それが具体的に我々としてどうできるかというのは、やはり本当に議論していかなきゃいけないし、それからそれ以外にも、まだ喫緊のテーマがあるのかということとをみんなで話し合って、優先順位をつけてやっていけばいいと思うし、最終処分は本当にやらなきゃいけないんだけど、どう手をつけるかについては、まだ多分、近藤委員長も明確な方向性がありじゃないと思うので、その辺はこれからもお話ししながら、市民懇としても考えていきたいなということなんですけれどもね。

○小沢委員 私なんかはすぐ、「ここの土地はあいてるけど、引き受けない？」とかって、あちこちへ行って言うんだけどさ。「いいじゃん、お金はあまり来ないけど」とか「日本のためにもなるよ」とか。

○近藤原子力委員長 いや、お金の問題が、非常に汚い話になって、過去の経緯もあるからしょうがないと思いつつ、本来、理念的には公平性の観点から、国民が利益を得るためには、当然、その立地地域には利益を国民全体が期待していないはずはない。そのあかしとしてお金を出すんだと、私は説明しているんですけども、しかし、「お金」と言った瞬間に、もう「札びらやる気か」とか、そういう非常に次元の低い話が始まっちゃうん

ですよ。

○中村座長　そうですね。

○小沢委員　それは、やはり「こういうふうには節約しました」と言わないで、ぼろぼろ金をあれしたり、防衛庁がゴルフをやっていたみたいな話が出ているときに、「あなた方、増税しますよ」と言ったら誰も賛成しないのと同じで、やはり原子力は過去を間違っているんです。負の遺産です。だから、しょうがない。何とかして直していく方法しか考えられない、手だてとしてはね。

○中村座長　というような議論をこれからも深めてまいりたいと思いますので、委員の皆様は可能な限り、ご出席をお願いいたしたいと思います。

今日は議論はこれで一応終わらせていただいて、あと、事務局から、この後の連絡事項等がございましたら。

○事務局　最後に、事務連絡でございます。

10月29日の横浜の懇談会でございますけれども、確認でございますが、12時にご参集いただければ、控室にご案内させていただきます。そこで昼食兼事前打ち合わせをさせていただきますと思います。

それから、また来週、立て続けてでございますけれども、22日の柏崎の視察の件でございます。柏崎駅でございますが、皆様、電車に乗っていただけて行かれるわけでございますけれども、早目に着かれる方につきましては、11時半に柏崎駅の改札を出たところへ集合という形で来ていただければというふうに考えてございます。柏崎駅の改札につきましては、1カ所しかないということでございますので、その出たところでご集合いただければということでございます。

あと、今回の議事録につきましては、作成いたしまして、委員の皆様の確認後、ホームページに掲載、公表させていただきたいと思います。よろしくお願いいたします。

以上でございます。

○中村座長　それでは、柏崎刈羽に視察へ行かれる方は、柏崎駅でお会いしましょう。それ以外の皆さんは、横浜でお会いしたいと思います。では、以上です。

どうもご苦労さまでした。ありがとうございました。